

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700807		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム北札内ふれあい館1・2		
所在地	〒089-0533 中川郡幕別町新北町77-5 (電話) 0155-55-6650		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月4日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】(平成21年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年12月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人 非常勤 5人 常勤換算	10.7人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000~52,000 円	その他の経費(月額)	24,000~29,300 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要 (10月21日現在在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 64 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	十勝の杜病院、みずほ通り歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、温泉付き高齢者マンションとの併設で利用者同士の交流や温泉施設の利用等協力を保ち、地域住民にも理解されている。管理者と職員は、意思の疎通を図り利用者本位の生活と介護を目指し、日々のケアサービスにつとめている。利用者や家族の思いを受け止め、不安を取り除くようにするなど、利用者はもちろんのこと、家族とのコミュニケーションや思いを尊重した対応に心がけながら取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は、特にない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行い、管理者がまとめて作成している。職員自身の日々のケアの振り返りにもなり、自己評価はサービスの質の向上ができる機会と捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や民生委員、行政職員等を委員として運営推進会議を定期的に開催している。運営推進会議では事業所の報告だけにとどまらず、出席者からの意見や要望を受けている。出された意見は事業所に持ち帰り、職員と話し合い運営に活かす取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪が多く、職員は常に家族とコミュニケーションをとり話を聞くように努めている。運営推進会議の中でも家族代表者から意見を聞くなどしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、民生委員、ボランティア等多くの地域住民と交流を行っている。施設内の敷地で野菜販売店を開くなどして、人の集まる機会が多い。また、併設のシニアマンションや通所介護事業所の人々との交流も日常的に行っている。小学生も年2回授業の一環として訪問するなど、教育関係機関との連携も取れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気を大切にし、その人らしく生活できるように支援することを理念として、事業所内に掲示している。また、事業所のケア方針を独自に掲げ社会とのつながりを重視した内容を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや休憩時間でも、理念について話し合い、理念が実践に活かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事には、利用者と一緒に参加し、事業所の行事にも地域住民が参加するなど、双方向の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、職員のそれぞれの気付きについても話し合いを行っている。外部評価の結果についても真摯に受け止め、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに行っている。事業所の案内や運営状況の報告に終わることなく、参加者から要望や意見を聞いてサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に行政の担当者も出席しているので交流する機会を持っており、必要に応じて相談を行う等連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者が家族へ個々にコメントを入れた便りとともに、金銭管理帳、領収書を送付するなど健康状態や暮らしぶりを定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に代表者が参加をしていて、家族の意見が出されている。家族訪問が多く、来訪時に家族に声かけをし要望に耳を傾け情報を交換している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、退職時には前任者と後任者が1週間から2週間の引き継ぎ期間を設け、利用者や家族とのコミュニケーションを密に取りながら、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人は管理者や職員が習熟度に応じた研修を受講できるように配慮し、外部研修への参加を促している。研修を受講した職員はスタッフ会議で報告し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。シフトを見直しながら順次研修に参加している状況であり、内部研修は2ヶ月に1回開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には多くのグループホーム等があり研修会等で交流をしている。	○	同業者との相互の勉強会に参加や見学するなど、交流の機会を広げる活動を通じたネットワークによりサービスの質の向上を図ることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたりホーム長が自宅、病院等の訪問を行い、さらに、本人や家族が事業所の見学を行う等しながら、本人が馴染めるように家族の協力を得ながら利用者個々の状態に応じて工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の個々の生活歴に沿った支援の中から、本人から学んだり支えあう関係を築いている。利用者のできることを一緒に行い、暮らしの中での達成感や充実感を感じることができるよう支援し、喜びなどをともに分かち合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員を担当制にし、個々の関わりや普段のコミュニケーションを通し、本人の希望に合わせて散歩や買い物など本人本位に支援をしている。思いの表出が困難な利用者については、普段の関わりの中から思いを汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議やカンファレンスを通じ、本人や医師と家族の意見を聞き、個々のケアの担当者と職員、ケアマネジャーを交えて話し合い計画を作成している。また、ケア目標を短期、長期に分けて定めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っている。さらに、利用者の状況に変化があれば直ちに見直しを行い現状に即した計画に作り直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にはシニアマンションと通所介護事業所を併設しており、共同で温泉を利用している。法人のバスを利用して紅葉狩りや外食に行く等、柔軟に対応している。各事業所は共に特徴を活かしながら協力しあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、それぞれのかかりつけ医に受診している。受診にあたって、家族が対応できない時は職員が対応し、医師からの情報を受診記録に記載し家族や職員が共有できるようになっている。歯科応診は週1回実施し、看護師も配置され健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に事業所の対応について文書で家族に説明をしている。利用者の病状に変化がある時は家族に状況を説明し、家族と一緒に受診し医師と家族とともに話し合い、早い段階から方針を確認しながら対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねようとする言葉かけや対応、記録等に取り扱いをしていない	居室にトイレがあり誘導する等についてもプライバシーを損ねるような対応はしていない。何気ない生活動作での言葉かけや対応も誇りを損ねるようなことがないように気を付けている。記録も適切に保管、管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活を大切にしながらメリハリのある生活ができるように散歩や買い物、趣味活動、カラオケ等の利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、それに基づき調理を行っている。週2回は、利用者の好みの献立で職員は利用者とともに作り、買い物もするなど楽しみを盛り込んでいる。また、利用者と職員と一緒に調理の下準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望等を考慮し、曜日を決めず週3回をめぐりに支援をしている。また、施設内に温泉もあるのでその都度利用者が選ぶようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じて職員と一緒に食後の後片付けを行ったり茶碗を拭いたりしている。生活歴を活かした趣味を楽しんだり、利用者の誕生日には職員と1対1で利用者の希望する場所に出かけている。本人の希望に応じて対応するよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外食、弁当持参のドライブ、買い物など天気が良ければ昼間はできる限り外出するように支援をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族や近隣住民の訪問が頻繁にあり、利用者も自由に出入りできるように鍵をかけないケアに取り組んでいる。防犯上、夜間は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の住民が参加し、年2回防災訓練を行っているが、夜間想定における実践的訓練は未実施である。本年は消火器の使用方法など防災機器や職員の招集訓練を行い、地域住民の協力も得られている。	○	非常時における利用者の避難場所の確認や夜間を想定した実践的な訓練について、消防署の指導も仰ぎながら実施されることを期待したい。運営推進会議を通じて、併設事業所と一体となった防災体制についても協議を行うなど体制を強化されることに期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録し、栄養、水分摂取状態について毎日の申し送り等で確認し過不足が生じないように対応している。粥食や刻み食など、利用者のその時々状態に応じた食事の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには明るい日差しが入り、利用者はそれぞれの居場所でくつろいでいる。壁には行事の写真や利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や家族が持ち込んだ装飾品が飾り付けられている。位牌を持参し、毎日お参りをしている利用者もいる。冷蔵庫や加湿器等を設置している利用者もあり、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。